

2026年3月期 第3四半期決算 説明資料

2026年2月9日
日本貨物鉄道株式会社

1. 2026年3月期 第3四半期決算

2. 2026年3月期 業績見通し

1. 2026年3月期 第3四半期決算

連結経営成績

(単位：億円、単位未満切捨て)

	2025年3月期 第3四半期実績	2026年3月期 第3四半期実績	対前年同期	
			増減	%
営業収益	1,481	1,536	+54	+3.7
営業費用	1,457	1,507	+50	+3.5
営業利益	24	28	+3	+16.3
経常利益	18	21	+2	+15.2
親会社株主に帰属する 四半期純利益	13	7	-5	-42.6

単体経営成績

営業収益	1,193	1,229	+35	+3.0
営業費用	1,186	1,220	+33	+2.8
営業利益	7	9	+2	+30.2
経常利益	-1	0	+1	—
四半期純利益	1	-4	-5	—

- 連結営業収益は、コンテナ輸送量の増加等により増収。
- 連結営業費用は、車両修繕費や線路使用料の単価増等があり増加。
- 連結営業利益及び連結経常利益は、輸送量の増加などにより増益。
- 親会社株主に帰属する四半期純利益は、前期駅移転に関する特別利益の計上があったため減益。

1. 2026年3月期 第3四半期決算

セグメント別状況

(単位：億円、単位未満切捨て)

		2025年3月期 第3四半期実績	2026年3月期 第3四半期実績	対前年同期	
				増減	%
鉄道ロジスティクス事業	営業収益	1,341	1,386	+44	+3.3
	営業利益	-51	-56	-4	—
不動産事業	営業収益	148	157	+8	+5.9
	営業利益	73	82	+8	+12.1
その他	営業収益	35	36	+0	+2.3
	営業利益	0	1	+0	+96.4

(単体) 事業別状況

鉄 道 事 業	営業収益	1,072	1,100	+27	+2.6
	営業費用	1,137	1,171	+34	+3.0
	営業利益	-65	-71	-6	—
関 連 事 業	営業収益	121	129	+7	+6.5
	営業費用	48	48	-0	-0.7
	営業利益	72	80	+8	+11.3

- 鉄道ロジスティクス事業では、コンテナ輸送量の増加等により増収となったが、車両修繕費や線路使用料等の費用の増加が上回り減益。
- 不動産事業は社宅跡地の土地持分譲渡等が影響し増収増益。

1. 2026年3月期 第3四半期決算

連結財政状態

(単位：億円、単位未満切捨て)

	2025年3月期 実績	2026年3月期 第3四半期実績	対前期末 増減	備考
資 産	4,568	4,682	+114	流動資産 922億円 (対前期末 +116億円) 固定資産 3,759億円 (対前期末 -2億円)
負 債	3,540	3,631	+90	
純 資 産	1,027	1,051	+23	
自己資本比率	21.2%	21.1%	—	

単体財政状態

資 産	4,173	4,288	+114	流動資産 723億円 (対前期末 +126億円) ・現金及び預金の増 +111億円 固定資産 3,564億円 (対前期末 -12億円) ・減価償却の進捗による減
負 債	3,502	3,620	+117	当期末長期債務2,447億円 (対前期末 +199億円) ・社債 540億円 (対前期末 +100億円) ・有利子借入 883億円 (対前期末 +24億円) ・無利子借入 1,024億円 (対前期末 +74億円)
純 資 産	670	667	-3	

- 2025年6月にグリーンボンドを含む社債を発行し100億円、12月にシ・ローンを実施し50億円を調達。
- 震災・大雨・噴火に対応したコミットメントライン（貸付限度額150億円）を継続。当期まで利用なし。

1. 2026年3月期 第3四半期決算

連結キャッシュ・フローの状況

(単位：億円、単位未満切捨て)

	2025年3月期 第3四半期累計	2026年3月期 第3四半期累計	対前年同期	
			増減	%
営業活動によるキャッシュ・フロー	73	138	+64	+87.9
投資活動によるキャッシュ・フロー	-209	-394	-185	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	242	197	-44	-18.5
現金及び現金同等物の増減額	106	-59	-165	—
現金及び現金同等物の期末残高	317	349	+31	+10.1

単体キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フロー	77	131	+53	+68.2
投資活動によるキャッシュ・フロー	-201	-335	-133	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	210	166	-44	-21.2
現金及び現金同等物の増減額	87	-38	-125	—
現金及び現金同等物の期末残高	184	245	+61	+33.1

- 連結の営業活動によるキャッシュ・フローは、退職給付に係る負債と未収運賃の影響により流入額が増加。
- 投資活動によるキャッシュ・フローは、定期預金の預入支出の増加等により流出額が増加。
- 財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入による調達額及び社債発行による調達額の減により流入額が減少。
- 現金及び現金同等物は期首から59億円減少し、期末残高は349億円。

1. 2026年3月期 第3四半期決算

品目別輸送実績表

(単位：千トン、単位未満切捨て)

	2025年3月期 第3四半期累計	2026年3月期 第3四半期累計	対前年同期	
			増減	%
輸 送 量	20,005	20,447	+441	+2.2
コンテナ	13,901	14,499	+598	+4.3
農産品・青果物	1,147	1,141	-5	-0.5
化学工業品	1,173	1,168	-5	-0.4
化学薬品	810	806	-4	-0.6
食料工業品	2,381	2,325	-56	-2.4
紙・パルプ	1,574	1,561	-13	-0.9
他工業品	885	943	+58	+6.6
積合せ貨物	2,411	2,462	+51	+2.1
自動車部品	542	616	+73	+13.5
家電・情報機器	287	267	-20	-7.0
エコ関連物資	350	731	+380	+108.6
その他	2,334	2,474	+140	+6.0
車 扱	6,104	5,947	-157	-2.6
石油	4,238	4,143	-95	-2.2
セメント・石灰石	1,006	1,016	+9	+1.0
車両	582	581	+0	-0.2
その他	277	206	-70	-25.5

- コンテナは、エコ関連物資が、中央新幹線建設工事に伴う発生土の運搬により前年を上回ったほか、自動車部品は、一部顧客における増送が続いたことにより前年を上回った。また、積合せ貨物は、ドライバー不足に伴う鉄道シフトにより増送となり前年を上回り、コンテナ全体で前年を上回った。車扱は、石油が、補助金の段階的な拡充に伴う買い控えにより11月はガソリンや軽油が減送となったほか、12月は平年より気温が高く燃料需要が減少した影響により灯油等が減送となり前年を下回った。また、亜鉛が輸送終了となった影響もあり、車扱全体は前年を下回った。コンテナ・車扱の合計では前年を上回った。

1. 2026年3月期 第3四半期決算

2. 2026年3月期 業績見通し

2. 2026年3月期 業績見通し

連 結

(単位：億円、単位未満切捨て)

	2025年3月期 実績	2026年3月期 見通し	対前年同期		2026年3月期 前回見通し (2025.11.10)
			増減	%	
営 業 収 益	2,007	2,103	+96	+4.8	2,130
営 業 利 益	27	36	+9	+33.0	54
経 常 利 益	14	25	+11	+71.7	41
親会社株主に帰属する 当期純利益	67	13	-54	-80.8	17

単 体

営 業 収 益	1,622	1,699	+76	+4.7	1,729
営 業 利 益	6	17	+10	+154.5	35
経 常 利 益	-8	5	+14	—	21
当 期 純 利 益	53	1	-51	-98.1	6

- 既存の輸送力を最大限に活用し、物流の2024年問題やカーボンニュートラルへの対応といった社会的課題に応えることで、対前年での増収を見込む。
- 自然災害の影響による農産品・青果物の生育不良や、一部顧客における出貨停滞により運輸収入が想定を下回っており、前回業績見通しから下方修正する。
- 物価上昇により個人消費が依然として力強さを欠く中ではあるものの、社会課題の解決に貢献するため、グループ社員の力を結集して総合物流事業を推進し、安全管理の徹底、災害発生時にも迅速に対応できる体制を確立し、お客様のニーズに応えていく。

〔当社グループの事業系統図〕

